

至学館大学

SHIGAKKAN UNIVERSITY

至学館大学大学院

SHIGAKKAN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF WELLNESS

教育方針

Educational Policy

学位授与方針

Diploma policy

教育課程編成・実施方針

Curriculum policy

入学者受入方針

Admission policy

2017

目次 Contents

学校法人至学館の建学の理念及び至学館大学の教育理念と教育目標等

| | |
|--|---|
| I 学校法人至学館の建学の理念 | 1 |
| II 至学館大学の教育理念と教育目標 | 1 |
| III 学部・学科の教育目標とディプロマ・ポリシー | 2 |
| A 教育目標 | 2 |
| B ディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | 2 |
| IV 学部・学科のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針) | 4 |
| V 大学及び学部・学科のアドミッション・ポリシー(入学者受入方針) | 9 |

大学院健康科学研究科の 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、 アドミッション・ポリシー等について

| | |
|-------------------------------------|----|
| I 理念・目的・教育目標 | 11 |
| II ディプロマ・ポリシー(学位授与方針) | 11 |
| III カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針) | 11 |
| IV アドミッション・ポリシー(入学者受入方針) | 12 |

I 学校法人至学館の建学の理念

本学園の建学の理念は『人間力の涵養』である。

II 至学館大学の教育理念と教育目標

至学館大学の教育理念は『人間力の形成』である。

本学における「人間力」とは、「健康力」、「知的視力」、「社会力」、「自己形成力」及び「当事者力」の5つの力で構成されるものと定義し、これら5つの力を乗じ、総合的に応用・展開することができてはじめて真の「人間力」であるものとする。

すなわち、『真理と正義にもとづく価値観と倫理観をもち、広い視野と科学的な知識にもとづいた自己実現と人々の幸福のために寄与・貢献できる人間力の形成』である。

具体的には、学生自らが主体的に行動する機会を数多く設け、自らの大学は自分たちでつくる「名実ともに学生が主人公」の大学づくりを目指し、『主体的な発想のもと、心身ともに健全でたくましく、「生きる力」、「行動力」、「仲間愛」に溢れ、そして諦めないで何ごとにも「チャレンジする精神」をもった学生をひとりでも多く育てる』ことを本学の『教育目標』とする。

健康力

「健康力」とは、人間として行動するあらゆる場面において心身とともに社会（環境）的な健康について管理・保全ができる力をいう。

心身ともに健全な人間の形成を図るものである。

知的視力

「知的視力」とは、広い視野でものごとの本質を動的かつ構造的に深く捉え、的確に見極めることができる総合的な判断力をいう。

鋭い着眼力と論理的知性をもった説得力、リーダーシップなどを備えた実行力のある人間の形成を図るものである。

社会力

「社会力」とは、人と人のつながりの中でより良い社会を形成し、その運営や改善・改革に積極的に関わることができる力をいう。

主体的により良い社会をつくっていくためのコミュニケーション能力や統合力のある人間の形成を図るものである。

自己形成力

「自己形成力」とは、健全な社会人を目指して自己を磨き、積極的なチャレンジ精神と向上心をもってより良い社会をつくろうとする力をいう。

人間としての生き方を自覚し、主体性をもった学習や生活による目標の実現を目指して、常に自分自身を成長させることのできる人間の形成を図るものである。

当事者力

「当事者力」とは、何事も自分自身と関連づけ、状況を把握し、主体的に展開することができる力をいう。

さまざまな事象を自らの問題として捉え、能動的な思考と行動をとることができる人間の形成を図るものである。

Ⅲ 学部・学科の教育目標とディプロマ・ポリシー

A 教育目標

健康科学部

学生の潜在能力を引き出すような個性的で実学的な教育・研究を行うことによって、『豊かな教養とともに、各学科のそれぞれの分野における深い専門知識と実践力を身につけ、健全な心身に裏付けられた人間力をもって、人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる人間の育成』である。

健康スポーツ科学科

『健康の保持・増進のための運動・スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』である。

栄養科学科

『健康づくりのための栄養指導者として豊かな人間性と栄養・運動に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』である。

こども健康・教育学科

『心身ともに健全な子どもを育てるための指導者・支援者として豊かな人間性と子どもの成長・発達に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』である。

B ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

健康科学部

学士の学位は、大学学則の定めるところにより所定の単位を修得し、卒業した者に授与する（学位規程第3条）。なお、卒業の判定においては、各学科における所定の単位と学位授与要件のほかに、健康科学部として以下の要件を満たしていることが必要である。

- 1 本学が定義する「真の人間力」、すなわち「健康力」、「知的視力」、「社会力」、「自己形成力」及び「当事者力」の5つの力を総合的に応用・展開できる力を身につけている。
- 2 心身ともに健全でたくましく、「生きる力」「行動力」「仲間愛」に溢れ、そして、何ごとにも「チャレンジする精神」をもって、社会に貢献できる力を身につけている。
- 3 豊かな教養と高度な専門知識を有し、かつ多様な実践や経験をとおして自らの知識・技能を実社会において応用・展開できる力を身につけている。
- 4 国際化に対応するため、英語若しくは中国語、韓国語等の基礎的な語学力を身につけている。
- 5 科学的思考・論理的な展開・探究能力・表現技術・コミュニケーション能力などを総合的に身につけている。

健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科では、上記の教育目標を達成するために、学科が定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して学士（健康スポーツ科学）の学位を授与する。

- 1 身体の構造と機能や健康づくりに関する専門知識を身につけ、科学的に健康運動やスポーツ活動を指導することができる。
- 2 年齢、性別、その他の個人的な特性を考慮して、健康運動やスポーツ活動を指導することができる。
- 3 コンディショニングや身体ケア等の専門技能を身につけ、健康運動やスポーツ活動を指導することができる。
- 4 運動・スポーツの情報収集に関する基礎知識を身につけ、関連産業や事業（イベント等）を指導・支援することができる。
- 5 学校体育や健康づくりに必要な実技種目の指導法と技能を身につけ、実践の場で活用することができる。

栄養科学科

栄養科学科では、上記の教育目標を達成するために、学科が定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して学士（栄養科学）の学位を授与する。

- 1 栄養科学に関する専門知識を身につけ、科学的な視点から食と健康に関わる課題を探求し、問題解決のために取り組むことができる。
- 2 栄養と運動についての幅広い専門知識を身につけ、人々の健康づくりに寄与することができる。
- 3 ライフステージごとの栄養管理から各種疾病の予防・治療に至るまでの食と栄養に関わる専門的な知識を身につけ、栄養士又は管理栄養士として人々の健康づくりに寄与することができる。

こども健康・教育学科

こども健康・教育学科では、上記の教育目標を達成するために、学科が定める所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた学生に対して学士（こども学）の学位を授与する。

- 1 乳・幼児期から青少年期に至る子どもの成長・発達を系統的に理解し、各発達段階のつながりを踏まえて指導・支援することができる。
- 2 子どもを取り巻く社会及び環境に関心を持ち、その向上・改善に必要な知識を獲得し、自ら行動することができる。
- 3 乳・幼児期から青少年期に至る子どもの各発達段階に必要な遊びと文化（含環境）について、指導・支援することができる。
- 4 乳・幼児期から青少年期に至る子どもの適切な運動と栄養について理解し、一人ひとりの子どもが抱える課題を捉えるだけでなく、地域全体の子どもの健全な発達についても指導・支援することができる。
- 5 発達障害を含めた多様な子どもを適切に支援するための知識と技術を身につけ、指導・支援することができる。

IV 学部・学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

健康科学部

健康科学部のカリキュラムは、至学館大学の教育理念・目標にもとづき、健全な人間としての価値観・倫理観・社会性等の豊かで視野の広い人間力を身につけるための現代教養科目と、専門知識や技能を身につけるための専門教育科目を以下のような方針のもとに編成する。

現代教養科目

現代教養科目としては、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間力を涵養するための科目を、以下のように配置する。

- 初年次教育として、学生のモチベーション、リテンション、及びスタディ・スキルの向上を図るための基礎教養科目を設置する。
- 将来への見通しをもって創造的で積極的に社会に寄与・貢献するための「人間力」を形成するため、広範で多様な考え方と基本的な知識・技能を獲得するための総合的な教養科目を設置する。
- 国際化に対応するため、特に英語コミュニケーション能力の向上を目指して、個に合わせた習熟度別・目的別の英語教育科目を設置する。
- 情報教育、メディア・リテラシーの強化を目的として、個に合わせた習熟度別の情報教育科目を設置する。
- 学年進行による学生のスキル向上や意識レベルの向上に合わせて学習できるようにするため、いわゆる「くさび型」に配置する。

専門教育科目

専門教育科目としては、各学科の教育目標と同時にそれぞれのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を具現化するために特色ある授業科目を体系的に設置する。加えて、学部の柱となる「健康科学」に関する基礎知識を身につけさせるために学部共通科目を設置する。また、いずれの学科も講義による専門知識の修得のみでなく、それを実際に応用・展開できるようにするため、演習・実習・実技・実験科目等の実践的な科目をできるだけ豊富に設置する。

健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するため、専門教育科目として以下の9つの科目群を体系的に配置する。低学年においては、少人数教育により学生個々の学習状況を把握するとともに、教養科目と専門教育科目の連関を良くするために専門基礎演習科目を設置する。体育、スポーツ、健康運動の実践的な指導力の養成にあたっては、講義科目による基本的な知識の習得と並行して指導法を主な内容とした実技科目を配置するとともに、関連する演習や実習科目についても適時配置する。

また、各学生の将来設計に合わせて自らが希望・選択する分野に向かって、より専門的で効果的な履修が行えるように「スポーツコーチング専修」、「ヘルスエクササイズ専修」及び「スポーツプロデュース専修」の3つの専修コースを設定する。

科目群

■ 健康科学（学部共通）

健康の重要性やそれを保持・増進させるための運動、栄養、休養（リフレッシュ）に関する広範な知識を身につけるために、加齢による心身の変化を含めた身体的、精神的、及び社会的な健康に関する総合的な知識を修得するための科目群。

■ 健康社会学

高齢者や障がい者等に対する社会福祉分野、情報を発信するメディア関連の分野、健康やスポーツの競技会・イベント等を企画・運営する分野など、健康づくりやスポーツ活動を支援するために必要な知識や社会状況を理解し、それに対応する力を身につけるための科目群。

■ 栄養学

健康の保持・増進に必要な栄養学の基礎知識を修得するとともに、スポーツと栄養・食事に関する知識と技能を修得するための科目群。

■保健・衛生学

障がい児を含めて小児から成人までの発育・発達、老化に合わせ、科学的な情報を的確に収集・処理して個人や集団の健康を保持・増進するための保健・衛生に関する知識を修得し、かつ安全や救急・救命に関する知識と技能を修得して、体育・スポーツ活動の現場で安全で効果的な指導が展開できるようにするための科目群。

■スポーツ科学

スポーツ指導に関する歴史や文化的背景、スポーツの役割や原理、スポーツに関する法律等を理解するとともに、スポーツを通じた倫理観を育成し、スポーツ関連施設やそれを運営する行政機関を含めた社会的構造や集団行動におけるマネジメント能力を身につけ、スポーツ活動における心理学的、自然科学的知識をもとに科学的な指導ができるようにするための科目群。

■スポーツ医学

身体の構造や機能に関する知識と、運動による生理学的反応や運動が身体に及ぼす影響等に関する知識を修得するとともに、スポーツ障害に関する医学的知識と怪我や疲労に対処するための手技・手法を身につけるための科目群。

■運動学

競技スポーツ、学校体育、野外活動等に関する「運動の概念」や「スポーツ種目別特性」を理解し、体育・スポーツ活動の目的に合わせた実施内容やトレーニング方法に関する知識と実践的な指導スキルを修得するための科目群。

■運動実技・指導法

学校体育における実技指導、一般社会における健康運動指導、野外活動の指導、スポーツ活動の指導における実践力を高めるとともに、そのために必要となる個々人に合わせた指導法を工夫・展開する力を身につけるための科目群。

■専門演習・研究

低学年では、専門分野における広範で多様な基礎演習を行って健康やスポーツに関する興味・関心を高め、高学年では、より興味・関心をもつ専門的な分野に分かれて研究や演習を行うことにより、学生個々の専門性とその応用力をさらに高めるための科目群。

■その他

科学の進歩や社会情勢の変化によって生み出される新しい知識や技能を取り扱う科目や、教員免許（中学校・高等学校教諭〈保健体育〉）を取得するための科目群、その他、ほかの科目群で得た知識を応用又は補完するために必要な科目や各種資格を取得するための科目群。

専修コースの設置

■スポーツコーチング専修

体育・スポーツ分野でスポーツ選手の指導者を志す人のために、スポーツ選手の育成を科学的指導によって実現するための高度で専門的な知識と指導力を修得するための専修コース。

■ヘルスエクササイズ専修

生涯を通じた健康の保持・増進や今日的な健康問題を解消する健康運動指導のエキスパートを志す人のために、幼児から高齢者に至る各年代の適切な健康づくり運動に関する高度で専門的な知識と技能を修得するための専修コース。

■スポーツプロデュース専修

運動・スポーツ施設の運営や環境整備、スポーツ関連のメディア発信、スポーツイベントの企画・運営等、将来、運動・スポーツ活動のプロデューサーを志す人のために、年齢、性別及び障がいの有無等を考慮してさまざまな人の運動・スポーツを側面からサポートするための専門知識と技能を修得するための専修コース。

栄養科学科

栄養科学科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するため、専門教育科目として以下の13の科目群を体系的に配置する。なお、低学年においては、少人数教育により学生個々の学習状況を把握するとともに、教養科目と専門教育科目の連関を良くするために専門基礎演習科目を設置する。

専門教育科目としては、人間の営みを食物（栄養）と健康の観点から科学的に捉えることを基本とし、健康の保持・増進と疾病（特に生活習慣病）の予防を目的とした栄養学や、傷病者に対する栄養指導を目的とした栄養学を学ぶとともに、適切な栄養アセスメントやそれにもとづく栄養ケアプランの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができ、かつ運動指導も可能な健康指導者（管理栄養士）を養成するためのカリキュラムを講義、実験、実習及び演習科目を組み合わせて体系的に編成する。

また、スポーツ栄養学や健康運動学に関する授業科目も配置して健康科学部栄養科学科としてのカリキュラムの特色化を図る。

科目群

■ 健康科学（学部共通）

健康の重要性やそれを保持・増進させるための運動、栄養、休養（リフレッシュ）に関する広範な知識を身につけるために、加齢による心身の変化を含めた身体的、精神的、及び社会的な健康に関する総合的な知識を修得するための科目群。

■ 栄養学

栄養とは何か、その意義を理解するとともに、健康の保持・増進、疾病予防・治療における栄養素の役割を消化吸収、体内動態、及び代謝調節の観点から理解する。また、年齢、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（含栄養アセスメント）についての専門的な知識を修得するとともに、実践力を身につけるための科目群。

また、栄養と運動・スポーツとの関わりについても理解し、対象者の特性や目的（健康づくり、競技力向上など）に応じた、栄養ケアプラン及び運動プログラムの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについての知識を修得するとともに、実践力を身につけるための科目群でもある。

■ 食品学・調理学

食品に含まれる各種成分（栄養成分、嗜好成分、機能性成分等）についての基礎的な知識とともに、食品群別及び食品毎の栄養特性や調理・加工等による変化、並びに実践に即した調理・加工技術等を修得するための科目群。

■ 保健・衛生学

人々の健康の保持・増進と社会及び環境との関わりを理解するために必要な社会的課題としての保健・医療・福祉等について、基礎知識並びに環境因子について理解する。

また、社会的諸制度としての衛生行政、衛生法規、地域保健対策等について理解するとともに、食品の表示や食品衛生に関する基礎的な知識と実践力を身につけるための科目群。

■ 解剖生理・生化学

人体の構造と機能について系統的に理解するとともに、生体を構成する物質（生体分子）の構造、機能、動態を医学・生化学的に理解し、ヒトの身体の仕組みや働きについて基礎的な知識を修得するための科目群。

■ 病態学・臨床医学

栄養・食生活に関連する疾病などの成因、病態生理、症候と診断（病態評価）、治療法について学習し、それらを人体の構造と機能に関連づけて説明できるようにするための科目群。

■ 臨床栄養学

傷病者の病態や栄養状態にもとづき、適切な栄養マネジメントを行うために、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給計画、栄養教育などが実践できるようにするための科目群。

■ 公衆栄養学

地域や職域等における健康・栄養問題とそれを取り巻くさまざまな要因に関する情報を収集・分析する力を身につけるとともに、あらゆる健康・栄養問題を抱えている人に対しての栄養ケアプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる能力を養うための科目群。

■ 栄養教育

個別又は集団の健康・栄養状態、食行動、食環境等の評価・判定にもとづいた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする方法を学び、実践的に展開できる能力を身につけるための科目群。

■ 給食経営管理

特定多数の人々の健康状態・栄養状態の改善、維持・向上、QOLの向上を目標とした栄養・食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステム及びマネジメントについて、経営管理の理論にもとづいて理解し、それを実践できるようにするための科目群。

■ 健康運動学

運動による生理学的反応や運動が身体に及ぼす影響等に関しての知識を修得するとともに、健康づくりのための運動処方等についての実践力を身につけるための科目群。

■ 臨地実習

実践活動の場（病院その他の施設）における課題発見と解決をとおして、栄養評価・判定にもとづく適切なマネジメントを行うために必要な専門知識と技術の統合を図るための実習。

■ 演習・研究

低学年では、専門分野に関する広範で多様な基礎演習を行って食と健康に関する興味・関心を高め、高学年では、修得した栄養科学の知識をもとに、応用力、実践力、科学的思考力、及び自己研鑽力を身につけるための科目群。

■ その他

栄養教諭や健康運動実践指導者資格取得に必要な科目群。

こども健康・教育学科

こども健康・教育学科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するため、専門教育科目として以下の7つの科目群を体系的に配置する。

心身ともに健全な子どもを育てるための指導者・支援者として必要な能力の養成にあたっては、各科目群において、講義及び演習により基本的な知識と実践力の修得を図り、それと同時に「こども学」の科目群を中心に、子どもや指導者・支援者と直接関わる機会ももつことで、学修成果の統合を図る。さらに、指導者・支援者として求められる人間力の定着を図るための実習科目を適切に配置する。

また、学生が自ら希望・選択する分野に向けてより専門的に履修が行えるよう「保育・初等教育コース」と「初等・中等教育コース」の2つの履修モデルコースを設定する。

科目群

■健康科学（学部共通）

健康の重要性やそれを保持・増進させるための運動、栄養、休養（リフレッシュ）に関する広範な知識を身につけるために、加齢による心身の変化を含めた身体的、精神的、及び社会的な健康に関する総合的な知識を修得するための科目群。

■こども学

本科目群は、その他の関連する授業科目を学習していくための出発点であると同時に集約点としても位置づけ、学外実習・実践研究等を取り入れながら子どもの成長・発達に関する専門的な知識とそれにもとづく実践力を身につけるための科目群。

■こころとからだ

乳・幼児期から青少年期に至る子どもの成長・発達の特徴を理解するとともに、心身の健康を保つために必要な理論と実践を系統的に学修し、発達段階に応じて指導・支援を行う専門的な方法を身につけるための科目群。

■社会と環境

子どもを取り巻く社会と環境についての現状とこれからの在り方について学修するとともに、自らがそれらの改善に向けて行動できる力を身につけるための科目群。

■遊びと文化

乳・幼児期から青少年期に至る子どもの成長・発達段階に応じた遊びと文化について、実際に指導・支援するために必要な知識を身につけるとともに、子どもの発達段階に合った遊びと文化を創造できる力を修得するための科目群。

■運動と栄養

子どもの心身の健康とその健全な発達を保障するために必要な運動と栄養について理解し、一人ひとりの子どもが抱える課題に対応して、また、地域全体の子どもの健全な発達についての指導・支援に必要な専門的な知識を修得するための科目群。

■発達・教育支援

発達障害など、個々に合わせた配慮を要する子どもが多様化していく中で、一人ひとりの子どもの状況を見極め、適切に支援するための知識と技術に関する専門的な知識を学修するための科目群。

■その他

保育士資格や教員免許（幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭〈保健体育〉）取得に必要な科目群。

履修モデルコース

■保育・初等教育コース

乳・幼児期から児童期の子どもを対象に、健全な発育・発達を促す指導者・支援者を目指すコース。

■初等・中等教育コース

乳・幼児期における発育・発達を踏まえて、児童期から青少年期の子どもを対象に、健全な発達・成長を促す指導者・支援者を目指すコース。

大学

至学館大学は、「健康力」、「知的視力」、「社会力」、「自己形成力」及び「当事者力」の5つの力を総合して応用展開できる『人間力の形成』を教育理念としている。すなわち、『真理と正義にもとづく価値観と倫理観をもち、広い視野と科学的な知識にもとづいた自己実現と人々の幸福のために寄与・貢献できる人間力の形成』である。

具体的には、『主体的な発想のもと、心身ともに健全でたくましく、「生きる力」、「行動力」、「仲間愛」に溢れ、そして諦めないで何ごとにも「チャレンジする精神」をもった学生をひとりでも多く育てる』ことを教育目標としている。

本学では、このような教育理念と教育目標を理解した上で、常に主体的に学び、何事にも積極的にチャレンジしようとする探求心旺盛な人の入学を望んでいる。

健康科学部

健康科学部は、『豊かな教養とともに、各学科のそれぞれの分野における深い専門知識と実践力を身につけ、健全な心身に裏付けられた人間力をもって、人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる人間の育成』を教育目標としている。

そのため、各学科ではそれぞれの専門的な知識を修得するのみならず、豊富な実学的科目（実験、実習、実技、演習等）を置いて、できるだけ実践力を身につけるための特色ある教育を展開している。

健康科学部では、将来、人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献したいという強い志のある人の入学を望んでいる。

学部で学ぶにあたっては、高等学校で文系・理系を問わず多くの科目を広く学び、履修したすべての教科の基礎学力を身につけておくことが望ましい。

健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科は、『健康の保持・増進のための運動・スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』を教育目標としている。

また、本学科は、中学校や高等学校教諭（保健体育）の免許取得課程や健康運動・障害者スポーツ・専門スポーツ等の各種指導者資格を取得する課程を有している。

これらの課程では、学校や各種施設及び地域におけるスポーツ・健康運動等の指導・運営に関する高度な専門知識とともに、より効果的で科学的な指導を行うための実践力が身につくような特色ある教育を展開している。

そのため、健康スポーツ科学科では強い目的意識のもとに次のような志のある人を求めている。

- 1 学校体育や競技スポーツに関心をもち、将来、体育・スポーツの分野における専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かな指導者を目指したい。
- 2 生涯を通じた健康の保持・増進や今日的な健康問題に関心をもち、将来、健康運動指導に関する専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かなエキスパートを目指したい。
- 3 運動・スポーツ施設の運営や環境整備、メディア発信、イベント企画等に関心をもち、将来、運動・スポーツ活動を側面からサポートするための専門的な知識と実践力を身につけた人間力豊かなプロデューサーを目指したい。

本学科で学ぶにあたっては、高等学校での授業や課外活動のみならず、日常生活においても健康づくり・体育・スポーツ活動の指導や運営に関心を高めておくことが望ましい。

栄養科学科

栄養科学科は、『健康づくりのための栄養指導者として豊かな人間性と栄養・運動に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』を教育目標としている。

また、本学科は、栄養士・管理栄養士養成課程並びに栄養教諭免許の取得課程を有するとともに、健康運動実践指導者の資格取得も可能で、将来、病院、福祉施設、学校及び企業（スポーツ関連施設を含む）等において健康指導を行うための栄養や運動に関する高度な専門知識と実践力を身につけるための特色ある教育を展開している。

そのため、栄養科学科では強い目的意識のもとに次のような志のある人を求めている。

- 1 栄養科学に関する高度な専門知識及び技術を身につけ、人々の健康づくりに寄与・貢献できる管理栄養士を目指したい。
- 2 栄養と運動・スポーツとの関わりについて関心を持ち、将来、スポーツチームやスポーツクラブ等の運動・スポーツの分野で管理栄養士を目指したい。
- 3 疾病の予防・治療と栄養との関係について関心を持ち、将来、病院や福祉施設等の臨床栄養の分野で管理栄養士を目指したい。
- 4 子どもの食育に関心を持ち、将来、保育園・幼稚園の栄養士や小・中学校の栄養教諭を目指したい。
- 5 食品の調理、加工や機能性成分等に関心を持ち、将来、給食現場での食事提供サービスのほか、食品関連企業での品質管理や商品開発等を目指したい。

本学科で学ぶにあたっては、高等学校での生物、化学及び家庭科などの科目で「ヒトの体の構造と機能」、「物質の構成」、「栄養」などに関する内容を積極的に学んでおくことが望ましい。

こども健康・教育学科

こども健康・教育学科は、『心身ともに健全な子どもを育てるための指導者・支援者として豊かな人間性と子どもの成長・発達に関する高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に寄与・貢献できる人間力の育成』を教育目標としている。

また、本学科は、保育士資格の他に幼稚園・小学校教諭及び中学校教諭（保健体育）の免許取得課程を有し、子どもの健全な発育・発達に関しての基礎知識とともに、各年代の子どもたちの成長に対して科学的かつ効果的に指導・支援できるような高度な専門知識と実践力を身につけるための特色ある教育を展開している。

そのため、こども健康・教育学科では強い目的意識のもとに次のような志のある人を求めている。

- 1 乳・幼児期から児童期における子どもの成長・発達に関心を持ち、将来、保育士・幼稚園及び小学校の教員を目指したい。
- 2 児童期から青少年期における子どもの成長・発達に関心を持ち、将来、小学校及び中学校（保健体育）の教員を目指したい。
- 3 子どもの発育・発達に関心を持ち、将来、地域における子どもの健康・体育・食育に関する指導者を目指したい。
- 4 子どもの発育・発達に関して、その環境の向上・改善に積極的に関わり、将来、子どもの健全育成に関する専門職を目指したい。

本学科で学ぶにあたっては、高等学校で履修した全ての教科の基礎学力を身につけ、子ども自身及び子どもにかかわる健康・教育問題について、書籍、新聞などの報道をとおして関心を高めておくとともに、自分の住む地域で積極的に子どもにかかわる活動に参加しておくことが望ましい。

大学院健康科学研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー等について

I 理念・目的・教育目標

本研究科は、「人間力の涵養」という本学園の「建学の理念」のもと、運動・栄養・休養を中心とした真の健康科学についての学問的確立とその応用を図ることによって、より健全で豊かな社会の構築に貢献できる「人間力の形成」を教育理念としている。

具体的な教育目標は、「健康の保持・増進を図るための高度な専門知識と実践力及び人間力を身につけた有能な健康指導者を養成する」ことである。

II ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

修士（健康科学）の学位は、大学院学則の定めるところにより所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する（学位規程第5条）。なお、課程修了の判定においては、以下の要件を満たしていることが必要である。

健康に関する諸問題に対して積極的に取り組み、科学的に解決していくための人間力（健康力、知的視力、社会力、自己形成力及び当事者力）を身につけている。

運動・栄養・休養に関する専門的な知識を具体的に応用・実践していくための指導力や研究力を身につけている。

III カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

本研究科では、上記の教育目標並びにディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を達成するために、健康・スポーツ科学コース、健康・スポーツマネジメントコース、スポーツ栄養コース、健康栄養コース、こども健康・教育コースの履修モデルコースを設けている。

教育課程は、すべての学生に共通である共通科目と、専門的に学修・研究するための専門教育科目によって構成する。これらの科目の中には、必修科目及び選択科目を配置する。

共通必修科目としては、健康科学に関する学際的内容について理解するための健康科学特論を開設するとともに、健康科学を研究する上で必要な方法論を身につけるための健康科学研究法入門や、健康科学に関するさまざまな課題に対して、学際的に解決する力を身につけるための健康科学課題解決演習、現代社会の今日的な話題について健康科学の視点から理解するための健康科学カレントトピックス特論を開設する。専門教育科目の必修科目としては、修士論文作成のための健康科学演習及び健康科学研究を開設する。

選択科目としては後述するそれぞれの専門領域に関して高度な専門知識を身につけるための科目を開設し、学生はそこから15単位を選択履修しなければならない。

また、開講年次については、講義科目をできるだけ第1年次に配置し、第2年次にはそれらの専門知識を活用して応用・実践や研究を行うための演習及び研究科目を配置する。

なお、修士課程修了のための所要単位は、共通必修科目（7単位）、専門教育科目内の必修科目（8単位）及び自由に選択履修できる自由科目（15単位）の合計30単位以上である。

共通科目と専門教育科目の主な内容は以下のとおりである。

共通科目

運動・栄養・休養の各領域に関する基礎から応用までの幅広い知識を修得し、かつ、科学的に研究する上で必要な知識と技能を修得するための科目群。

専門教育科目

人体の構造や機能と運動による影響を明らかにするために、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ医学、健康教育学、トレーニング科学、健康・スポーツマネジメント等の高度で専門的な知識と技能を修得するとともに、健康運動に関する諸問題に対して科学的に指導及び研究できる能力を身につけるための科目群。

Ⅳ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

至学館大学大学院健康科学研究科は、平成 4 年に日本で初めて健康科学を専門として誕生した研究科である。本研究科は、運動・栄養・心身の休養を中心とした真の健康科学についての学問的確立とその応用を図ることによって、より健全で豊かな社会の構築に貢献できる「人間力の形成」を教育理念としている。

具体的な教育目標は、健康の保持・増進を図るための高度な専門知識と実践力及び人間力を身につけた有能な健康指導者を養成することである。

本研究科では、上記の理念・目標を理解し、健康に関する諸問題に対して積極的に取り組み、科学的に解決していくための人間力とともに、高度で専門的な知識と技能を身につけ、健康指導者・研究者を目指す人を求めている。

なお、本研究科で学ぶにあたっては、健康に関する基礎的な知識を有するとともに、運動、栄養、心身の休養等について、いずれかを大学等で学修していることを求めている。